「12人を選び、宣教する」　2023年02月24日

朝になると弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選んで使徒と名付けられた。それは、イエスがペトロと名付けられたシモン、その兄弟アンデレ、そして、ヤコブ、ヨハネ、フィリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルファイの子ヤコブ、熱心党と呼ばれたシモン、ヤコブの子ユダ、それに後に裏切り者となったイスカリオテのユダである。（ルカ６：13～16）

イエスは彼らと一緒に山から下りて、平地にお立ちになった。大勢の弟子とおびただしい民衆が、ユダヤ全土とエルサレムから、また、ティルスやシドンの海岸地方から、イエスの話を聞くため、また病気を治してもらうために来ていた。汚れた霊に悩まされていた人々も癒やされた。（ルカ６：17～18）

主イエスは祈るために山に行き、夜を徹して祈られた。イスラエル人は、山は神が臨在する場と考えていた。主イエスは神が臨在する山に登り、一晩中祈られた。朝になると、弟子たちを呼び寄せ、その中から12人を選んで、使徒と名付けられた。「使徒」とは「遣わされた者」という意味で、福音宣教のために選び分かたれた者である。使徒という言葉は、使徒言行録時代に用いられ、福音書時代は「弟子」と言われている。12弟子の名が綴られている。主イエスが「ペトロ（岩）」と名付けたシモン、彼は、主イエスを心底愛し、使徒としての生涯を全うし、殉教者に加えられた。ペトロの弟アンデレ、大きな網元のような漁師ゼベダイの子ヤコブとヨハネ、知的なフィリポ、バルトロマイ、徴税人のマタイ、トマス、アルファイの子ヤコブ、ローマ支配に反抗する熱心党に与していたシモン、ヤコブの子ユダ、主イエスを売り渡したイスカリオテのユダ。この12人である。ルカとヨハネ福音書は「ヤコブの子ユダ」とあるが、マルコ、マタイ福音書では「タダイ」となっている。12使徒は歴史的事実ではないと言う人もいる。12という数字はイスラエル12部族と言われるように、満たされた数を意味している。12弟子は、主イエスが選ばれた弟子たちと考えてよいのではないか。彼らが弟子として選ばれた理由を、マルコ福音書では「これと思う人々（マルコ３：13）」とだけ書いており、その根拠は記されていない。言えることは、彼らはエリートではなく、ガリラヤの無学な一般民衆であったことである。そして、ローマ支配に加担する徴税人のマタイとローマに反抗する熱心党のシモンは相反する立場にあったが、その二人を弟子にしている。使徒たちは一面的ではなく、多様な人を呼び集めた集団であったということである。彼らは主イエスを理解することなく、つまずきの連続であったが、イスカリオテのユダを除き、復活の主イエスに出会ってからは、全き信従を貫いている。彼らによって、主イエスの福音が伝承され、その栄誉は教会を通して、称えられている。主イエスの呼び出しは有意義な人生を約束してくださる。

主イエスと弟子たちは山を下りて、人々が暮らす平地に戻って来た。すると、主イエスを慕って、おびただしい民衆が押し寄せてきた。ユダヤ全土と都エルサレムから、また、地中海に面した異教のティルスやシドンからも、主イエスの話を聞くため、また病気を治してもらうために集まって来た。汚れた霊に悩まされていた人々も来て、癒やされた。民衆は皆、何とかして主イエスに触れようとした。主イエスから出る力が病気を癒し、悪霊から解放させたからである。主イエスの「神の国」運動はガリラヤをはじめ、近隣地域に広められ、救いを喜ぶ「ガリラヤの春」と言われる時が到来した。